

南海トラフ巨大地震に備えましょう！

太地町 津波ハザードマップ

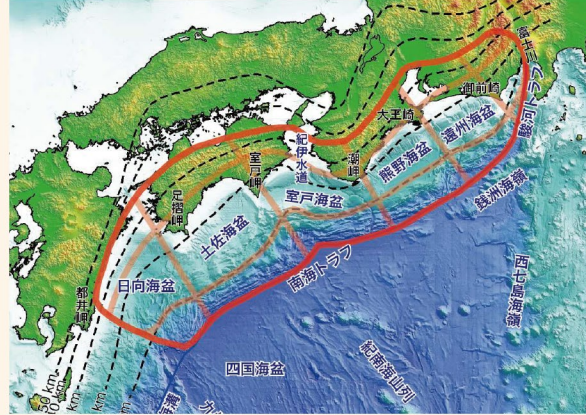
●和歌山県では、南海トラフの地震発生による津波浸水想定を2つのケースで行いました。

①南海トラフの巨大地震による浸水想定
(浸水区域をマップ上に「色分け」して表示)
内閣府が平成24年8月に公表した浸水想定を基に、和歌山県がより詳細な想定をしたもので、発生頻度は極めて低いが、仮に発生すれば、被害が甚大です。
「何としても逃げ切る」ための防災・減災対策を検討するために想定したものです。

②東海・東南海・南海3連動地震による浸水想定
(浸水区域をマップ上に「黄色の単線」で表示)
内閣府が平成15年に宝水地震、安政地震など実際に発生した地震を基に想定した、従来から和歌山県が防災・減災対策の「想定津波」としてきたものです。
約100年周期で発生する頻度が高く、まず対策が必要です。

●南海トラフ巨大地震による津波は、地震発生から3分で太地町に襲来します。
日頃から、あらかじめ避難する目標地点を確認しておき、強い地震を感じた時、または弱い地震でも長時間ゆっくりとした揺れを感じた時には、避難指示や避難勧告を待たず、「直ちに避難」するようにしましょう。
●発生する地震の規模によっては、地図に示した浸水想定区域以外のところでも浸水することがありますので、区域外(白地)にお住まいの方も避難するよう心がけてください。

南海トラフの位置



凡 例

- ☆の数(安全レベル) 指定避難先
- 避難目標地点
- 避難路
- 避難階段
- 山道
- 避難タワー

- 津波浸水想定区域(浸水深)
(南海トラフ巨大地震の場合)
- 0.5m未満
 - 0.5m以上～1.0m未満
 - 1.0m以上～2.0m未満
 - 2.0m以上～3.0m未満
 - 3.0m以上～5.0m未満
 - 5.0m以上

※東海・東南海・南海3連動地震の場合は、黄色の単線で津波到達最大範囲を表示



縮尺1:3,600
0 50 100 150 200m

津波から身を守るために

- ①海岸から離れ高い場所へ
- ②小さな揺れでも油断は禁物
- ③引き潮がなくても津波を警戒
- ④津波は繰り返し襲ってくる

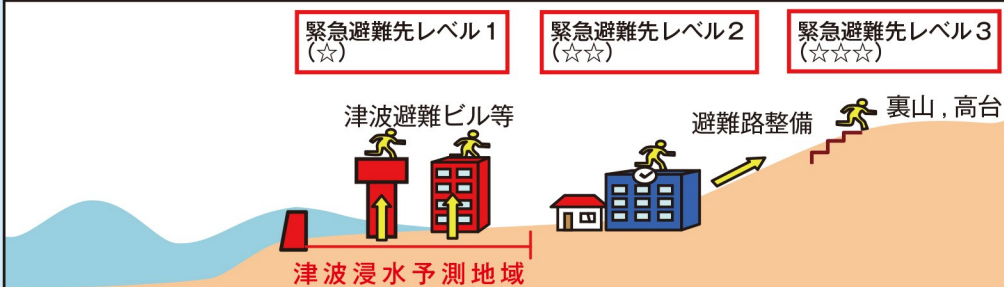
地震から身を守るために

- ①まず身の安全を
- ②すばやく火の始末
- ③戸を開けて出口を確保
- ④火が出たらすぐ消火
- ⑤外へ逃げるときはあわてずに
- ⑥狭い路地やブロック塀には近づかない
- ⑦山崩れ、がけ崩れ、津波に注意
- ⑧避難は徒歩で
- ⑨協力して応急援護
- ⑩正しい情報を聞く

地震が起きたらまず避難！

津波避難先安全レベルの考え方

緊急避難先レベル3 (☆☆☆)	浸水の危険性がない地域に、より標高が高くより離れた安全な場所を指定
緊急避難先レベル2 (☆☆)	浸水想定近接地域に、緊急避難先(レベル3)へ避難する余裕がないときの緊急避難先として指定
緊急避難先レベル1 (☆)	浸水の危険性がある地域に、時間的に緊急避難先(レベル2、3)に避難する余裕がない場合に対応するために緊急避難先として指定



(注：和歌山県資料「避難先の考え方」より引用)